

## ＜スポーツを取り巻く課題認識＞

### 課 題

#### 「する」スポーツ

- 運動不足を感じている人が、約80%と高い
- 子育て世代（30代）の運動の年齢別実施頻度が一番低い
  - 運動・スポーツを週1回以上していない理由は、「仕事や家事が忙しい」が最も多い（約50%）
- 多種多様なスポーツへの関心の高まりのなか、アーバンスポーツなど新しいスポーツに対する理解の不足、専門的に練習する場所、施設の不足
  - アーバンスポーツを街なかで行えるように整備していく取組みについては、賛成が約46%、反対は非常に少ない
- ・ライフスタイルの変化や娯楽の多様化に伴い、子どものスポーツに触れ合う機会の減少
- ・少子化に伴うチームスポーツを行う機会の減少
- ・学校部活動の地域移行による環境の変化
- ・少子高齢化による地域における運動、スポーツ環境の維持の困難
- ・プロスポーツチーム等による技術的指導等を通じた競技力の向上
- ・女性・ビジネスパーソン・高齢者・障がい者のスポーツ推進
- ・幼少期からスポーツに触れる取組み
- ・体を動かす体験によるスポーツのきっかけづくり
- ・国スポ・全障スポのレガシー活用（日常的なスポーツ実施）
- ・他の行政機関と連携した、スポーツによる健康増進

#### 「みる」スポーツ

- スポーツ観戦（テレビ観戦含む）は、週1時間以上が約44%と低い（前回54%）
- ・スポーツをみる機会を増やすための情報発信の強化
- ・プロスポーツチーム等と連携したスポーツの魅力発信
- ・トップレベルの選手等のスポーツ合宿誘致等による、みる機会の創出や交流の場の創出
- ・プロスポーツチーム等のスポーツ観戦による、スポーツがもたらす「経済的価値（経済波及効果）」や「社会的価値（高揚感、幸福感、満足感、シビックプライドなど）」の活用

#### 「ささえる」スポーツ

- 学校部活動の地域移行による環境の変化
  - 総合型地域スポーツクラブの認知度が、約8%と低い（前回6.5%）
- スポーツボランティア登録制度を認知している人が、約15%と低い
- スポーツボランティアに参加した人が、約9%と低い（前回11.3%）
- ・スポーツに参画する人や、スポーツに関する活動を支える担い手の不足
- ・指導者等の支える側への支援
- ・国スポ・全障スポのレガシー活用（スポーツボランティア活動の継続）